

# 特集 手づくり絵本 コンクール



村上 祐喜子  
手づくり絵本作家

## 大島絵本館ならではのコンクール

今夏、久しぶりに「おおしま国際手づくり絵本コンクール」の表彰式に出席しました。画材も大きさも製本方法も異なる多様な受賞作品が、それぞれの輝きをもって展示されていました。

21年前、故郷富山に絵本館ができた喜びで、一回目から応募しました。

でもコンクールと聞いたときは、それぞれの良さがある絵本に順位をつけることは難しいのでは？と正直思いました。特に手づくり絵本は、身近な人に読んでもらいたくつくる絵本。私も我が子の日常を描き、子どもの喜ぶ顔見たさにつくっていたので、比べられるものではないと。

でも、受賞作品の数々を見た時、その思いは一変しました。全国から集まる作品の力は強く、アイデアにあふれ、表現する可能性に挑み、コンクールなればこそそのエネルギーに満ちていました。

刺激を受け毎年応募。五回目に「ハラダさんのハラハラ記念日」で大賞をいただきました。長野オリンピックのあった一九九八年のことです。当時はまだ大人も子どもも一緒にコンクールで、応募数は千点を超えていました。

その後は大人の部と子どもの部に分かれ、年二回のコンクールに。大人の部にはしかけ絵本部門ができ、世界各国から募集する国際コンクールになりました。

初期に特別審査員を務められた絵本作

家のかすや昌弘先生の提案で、大賞受賞者のOBで「大島手づくり絵本倶楽部（OTEC）」を結成し、手づくり絵本を広め、大島絵本館の応援的存在になろうと活動を始めました。

絵本学会の第二回大会が大島絵本館であり入会。アジア児童文学大会では外国人相手にワークショップ。有峰へ二泊三日で自然を体感しながら徹夜で絵本づくり。そして毎年、コンクール入賞入選作品展の頃に同じフロアでOTEC作品展も開催しています。

自然が雄大で美しく、食べ物が美味しい富山の絵本館に行きたい！だからコンクールに応募する。家族で富山旅行を楽しみたいから受賞を目指す。そんな絵本仲間がたくさんいます。

表彰式では最優秀賞受賞作品が映像化して上映されるなど、スタッフの方々のおかげで印象深いコンクールです。

絵本館自体もファンタジックで絵本空間を満喫できます。

おおしま国際手づくり絵本コンクールファンが多いのは、こんな魅力があるからではないでしょうか。

人と出会い、ひらめきを共有して表現し絵本に込める。誰もがつくられる手づくり絵本。そのコンクールを通して絵本好きの人々が富山絵本館に集い、益々活気づくことを願っています。

## 私のおすすめ絵本

「おかあちゃんが  
つくった」

長谷川義史／作  
講談社

おかあちゃんって迫力あるんです。子どものためならえんやこーら。子どもの心がおいてきばりになっても暴走します。子どものためと思い込んで、でもそこから笑いかけ！



「オスカーとフー」

テオ／文  
マイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット／絵  
さくまゆみこ／訳  
評論社

ぼんやりオスカーが迷子になって出逢ったステキな友達、雲のフー。雲の友だちっていいなあ。



「ぼっかぼか」

諸橋精光／作  
小学館

自然体であるがまま。心穏やかに生きる。四季の野山や海と一緒にのんびり歩いている気持ちになれる。



「きつねのおきやくさま」

あまん きみこ／文  
二俣美五郎／絵  
サンリード

腹ペコ狐はひよこたちをたからせてから食べようと目論んでいたけれど自分の命をはって皆を助ける。笑みを浮かべながら息を



「わたしはあかねこ」

サトシ／作  
西村敏雄／絵  
文楽堂

まわりとの違いを認め自分の良さを信じて生きるあかねこにカラフルな未来が！自分がイヤになったら



「なつのいちにち」

はた こうしろう／作  
偕成社

夏のおいがしてくる本。夏の鼓動がきこえてくる本。青い空、緑の風、白い雲…きもちいい！

